

令和4年度 学力向上プラン

学校名 日本橋中 学校

学校の教育目標

○考える人になろう	○心ゆたかな人になろう
○たくましい人になろう	○みんなのためにつくす人になろう

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

1 学習で習得した知識及び技能を活用し、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。特に表現力の育成を目指した協働的な言語活動を全教育活動で展開することで、主体的な課題解決能力を育成する。
2 授業規律を徹底し、落ち着いた環境で授業を進め、基礎基本の確実な定着を図る。
3 校内研究、授業観察、個々の教員の教材研究で、毎時間の授業の質を向上させる。
4 各種検定の取組やサブノートの活用を通し、自学自習の意識を向上させ、学習習慣の確立を図る。

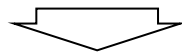
令和3年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの内容を聞き取る問題では、内容を整理しながら聞き取ることができない生徒が一定数いる。 漢字の書き取りの定着に課題がある。 話し合いの内容を聞き取ったり、他者の発表を聞いたりする際に、授業の課題や学習内容に即して聞くことができない生徒が一定数いる。 漢字の書き取り、読み取りが定着せず、向上しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞くことに特化した学習の機会が少なかった。 漢字について練習的な活動が十分ではなかった。 話し合い活動の際の視点や、課題が不明瞭だった。 漢字の書き取り、読み取り等について個別の課題設定ができていなかった。
数学	<ul style="list-style-type: none"> 方程式や関数の領域に関して若干苦手とする傾向がある。 関数の領域に関して、表から式を表すことを苦手とする傾向がある。 式を求めることができる理由や図形に対して論理的に考察し表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 方程式の仕組みに関する理解不足。 関数を活用した問題演習が足りなかった。 関数を活用した演習不足。 グループ活動や少人数指導で発表する場面が少なかった。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的分野において、具体的な歴史的事象についての知識の定着が不十分である。 地理的事象について、地球儀や地形図と関連付けて理解することに課題がある。 歴史的分野において、知識を定着させたり、学習で学んだことと既習事項を結び付けたりすることに課題がある。 地理的事象について、地球儀や地形図の活用に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項について反復練習する機会が少なかった。 授業中に地球儀や地形図を活用する場面が少なかった。 前時で学んだことを確認したり、活用したりする機会が少なかった。 生徒に地球儀や地図帳を活用させる授業を展開することが少なかった。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然事象についての知識が不足しているため、応用、発展させた思考が苦手である。 実験の目的、機器の使用方法の理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識を得ることで、思考が深まるような授業展開が不足していた。 明確な実験目的と、目的達成のための機器使用方法を伝えきれなかった。
英語	<ul style="list-style-type: none"> 文法や語句に関して定着が不十分な生徒が一部いる。 習得した文、語句を用いて、まとまりのある文章を書くこと、即興で話すことに課題がある。 初見の文章を理解することに課題がある。 文章の理解に対して、繰り返しの学習を要する。 習得した知識を活用して会話をしたり、発表したりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識の定着のための反復練習を行う機会が少なかった。 習得した事項を用いて表現に繋げる活動が不足していた。 多岐にわたる内容を扱った英文を読む機会が不足していた。 反復練習を重視し、初見の文章を読解する機会が少なかった。 習得した知識を表現する活動が不足していた。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度東京都生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査の結果は、計測項目の体力合計点では、全学年で東京都平均を上回ることができたが、握力、上体起こし、50m走、ハンドボールにおいて課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における運動機会の減少、部活動の活動自粛により、運動する時間が減少した。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・発表などの活動の際には、漫然と聞くのではなくポイントを絞ったり評価しながら聞いたりすることで聞く力を養う。 ・漢字テストや定期考査の漢字の書き取り読み取りに目標をもって取り組むようにする。
	算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式は用語の説明よりも、仕組みを定着させることを優先させる。 ・関数は x, y の対応関係を意識する。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項について反復練習する機会を増やす。 ・授業中に地球儀や地形図を活用する場面を増やす。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学の基礎知識や用語を正しく理解させる。 ・実験の目的と検証方法を理解させる。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で初見の文章を読解する機会を増やす。 ・会話や発表を増やし、アウトプットする機会を増やす。
	体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が保健体育の授業以外で自ら運動、スポーツに取り組めるようにする。 ・全学年、男女ともに全ての項目で都平均を超える。
②授業改善	<p>年度末に実施する保護者学校評価アンケートにおいて、肯定的評価が前年度を越える。(目標85%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価指標①『わかった』『できた』の楽しさを感じながら、主体的に学び、問題を解決する力を付けさせているか → 保護者 肯定的な回答 75.5% ・評価指標②「基礎的・基本的な学力を身に付けさせているか」 → 保護者 肯定的な回答 74.7% ・評価指標③「学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 → 保護者 肯定的な回答 69.5% ・評価指標④「個に応じた指導を行い基礎学力が身に付くように教えている。」 → 保護者 肯定的な回答 67.1% 	
③家庭との連携	<p>学校での学習の取組を保護者に伝わるように、Classroom や学年便り・学校便り等で発信をし、年度末に実施する保護者学校評価アンケートにおいて、保護者学校評価アンケートで「わからない」という回答を減少させる。</p> <p>評価指標①「学習内容がわかりやすく工夫された授業をしている。」 → 保護者 回答 わからない19.3%</p> <p>評価指標②「個に応じた指導を行い基礎学力が身に付くように教えている。」 → 保護者 回答 わからない15.3%</p> <p>また、「生活と学習のサプリノート」を活用し、学校と家庭の双方向の情報交換を通し、学習・生活状況の把握を行い、家庭学習の定着を促し、指導に生かし、学力の定着を目指す。</p>	

④体力向上	<p>年度末に実施する保護者学校評価アンケートにおいて、肯定的評価が前年度を越える。</p> <p>評価指標①「生徒の健康・体力の増進に努めている。」 → 保護者 肯定的な回答 81.5%</p> <p>評価指標②「今年度の体力・運動能力テストで以下の項目で東京都の平均値をほぼ等しくなるようにする。」 ・握力 ・上体おこし</p> <p>評価指標③「今年度の体力・運動能力テストで以下の項目で東京都の平均値を越えるようにする。」 ・50m走 ・ハンドボール</p>
-------	---

【目標達成のための具体的な取組内容】



① 各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・発表等では聞き手の観点や評価項目を明示する。次のステップで自らそれらを考えられるようにする。 ・漢字の小テスト等を定期的実施する。
算数・数学	<ul style="list-style-type: none"> ・方程式では仕組みの理解を定着させてから、用語の説明を行う。 ・関数では代入する機会を増やし、変数の対応関係の意識付けを行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ドリルパークの活用機会を増やす。 ・地理的分野の授業で地球儀とG S Iの活用機会を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然科学の基礎知識や用語を正しく理解させる。 ・実験の目的と検証方法を理解させる。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートやワークブックなど活用し初見の英文に触れる機会を増やす。 ・ALTの授業など活用し、スピーキングやプレゼンテーションの時間を増やし対話に抵抗をなくす。
体育・保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入時におけるコーディネーショントレーニングの種目数を増やすとともに、トレーニングの原則や種目における目的を説明する。また体づくり運動の単元を通して、自らの運動計画を立案する。 ・運動、スポーツを“する”だけでなく、“見る、支える、知る”など、多様な関わり方を通して、運動やスポーツを身近なものにする。
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ①交流が活発に行われる授業 ②「できた」「分かった」を実感させる授業 ③社会や生活に広がる授業を目指す。
取組Ⅱ	<p>「主体的に取り組み、考えを深め、表現する生徒の育成～問題解決型の授業を通して～」を研究主題に校内研究を行う。学び合い話し合い活動を中心に言語活動の充実を図る。</p>
③家庭との連携	
取組Ⅰ	<p>学校での学習への取組状況を保護者に対して様々な機会を捉え、より積極的に発信していく。</p> <p>また「生活と学習のサプリノート」を活用し、各生徒の家庭学習の状況を</p>

	把握するとともに、保護者と連携を図り、家庭学習の習慣化を目指させ、自学・自習の能力を育成する。毎日の記入と提出を生徒に促し、三者面談でサプリノートの記録などをもとに家庭学習について話をし、定着を促す。
取組Ⅱ	携帯電話、スマートフォン、タブレット等の使用について家庭でルールを決め、食事や睡眠時間など基本的な生活習慣を確立させる。
④体力向上	
取組Ⅰ	生徒が自ら体を動かしたくなるような企画や授業を行い、楽しみながら継続して体を動かせるようにする。 ①ダブルタッチ体験(筋力、握力、平衡性など) ②ICTの活用(自分の動きの確認、映像をもとに教え合うなど)
取組Ⅱ	毎時間の授業でコーディネーショントレーニングを取り入れる。体力テストを実施し、生徒一人一人が自身の健康や体力を把握するとともに、健康の保持増進するための運動を自ら実施できるようにする。